

Book Review

口腔保健推進ハンドブック 地域を支えるオーラルヘルスプロモーション

深井 穂博・池主 憲夫・川口 陽子・米山 武義 編



Reviewer

播磨利彦

(東京都・はりま歯科)

B5判, 334頁
定価 6,720円
(本体 6,400円+税 5%)
医歯薬出版刊



一つの専門書をじっくり読むのもよいけれど、一つのテーマをもとに多様な口腔保健をまとめたこの書には、よく使われる「目からウロコ」という言葉どころではなく、「目から唾液」との表現がぴったり当てはまる。急に視野が開けて、物事の実態が理解できるようになったという書である。

序から、医学書のなかに文学的要素を組み入れページは進む。各Partは読みやすく、わかりやすく、理解しやすい。

Part 1: 「これからの歯科保健医療の展開」では、患者さんの「QOL」を求め、口腔ヘルスケアをライフステージから分析(乳児～高齢者介護の口腔ヘルスケア分析)していく必要があることが語られている。

Part 2: 「口腔ヘルスケアの実際(疾患の予防法)とその科学的根拠」では、疾患と予防の科学的根拠を基に、臨床医が日々携わる口腔ヘルスケアのあり方を再認識できる。

Part 3: 「科学的根拠とヘルスプロ

モーションの理念に基づく口腔ヘルスケアとその評価」では、ヘルスプロモーション理念による評価と、評価後の活動の仕方や考え方を学ぶことができる。

Part 4: 「最新の口腔保健情報と口腔ヘルスケアのキーワード」では、患者の権利から、カウンセリング、インフォームドコンセント、そして高齢者ノーマライゼーション、介護、食育、禁煙指導などの実践的な記述があり、また、統計分析・治療法についての重要性が認識できる。

Part 5: 「資料編」は、歯科保健に関する資料そして法令などが一度に整理できる貴重な文献である。

各章の「はじめに」で、その章を読み続けさせる文体には、また感銘を受ける。エビデンスを伴ったデータ、資料、情報を、簡潔にわかりやすくレイアウトしてあるので、老化した私の頭脳にでもインプットされてくる。また、各章の「まとめ」も文学的な綴りで、もう一度前段の内容を甞させてくれる。

本書は、大学の教科書として使用できるのではないだろうか。このハンドブックで解説された各項目についての知識をマスターさせ、卒業時には卒業証書とともに聖書として歯科医師の卵たちにプレゼントすれば、世に出て信頼される歯科医師誕生のための懸橋となることだろう。

さらに本書は、ハンドブックのみならず、ウォーキングブックとして使いたいものだ。たとえば、各項目に「QRコード」をつけ、バーコードリーダーで携帯にダウンロードできるようにしてもらい、「口腔保健推進携帯(電話)ハンドブック」として「歩く教科書」にしたい書である。

従来(今も)、歯科医療技術の中心が貴金属加工技術であったために医学と切離され、「全身の諸器官」があったうえでの「口腔の健康」であった。そうではなく、口腔が全身の健康づくりに貢献するのであるということを提言し、もうそこにきている「超高齢化社会を支える歯科医院づくり」を示唆した書籍でもある。